

2022年度 環境経営レポート

対象期間：2022年 4月～2023年 3月



 **ホロン精工株式会社**

作成日：2023年 6月12日

改定日：

はじめに

当社は平成元年の創業以来、プラスチックのリサイクルに不可欠な粉砕機・破砕機・空冷式造粒機などを独自の技術で開発し、資源の有効利用に貢献しています。環境活動と環境にやさしい製品開発・ものづくりを通じて、地球環境保全のお役に立ちたいと願っております。

企業理念

役に立ち喜ばれる製品をより多く提供して社会に貢献する。
独自の技術を追求して存在感のある企業活動を展開する。
健全な財務体質を追求して永遠に存続する企業を目指す。
明るい職場環境と創造力が豊かで向上心に溢れる人材を育む。
柔軟な思考と自律的行動をもって絶えず変革する土壌を培う。

環境経営方針

基本理念

ホロン精工株式会社は、「役に立ち喜ばれる製品をより多く提供して社会に貢献する」また、「独自の技術を追求して存在感のある企業活動を展開する」の企業理念のもとに、資源リサイクルを目的とした粉砕機・破砕機・プラスチック造粒機などの製造・販売を通じて、地球環境保全の一端を担う事業を運営していると自負しています。

しかし、この事業活動を漫然と継続した場合に、環境負荷を増大させる一面がある事を認識し、地球環境の保全と社会への貢献を目指して活動します。

行動指針

1. 環境管理システムを構築する
 - ① 体制を整備し、活動の役割を全社員にて分担する
 - ② 環境保全に関する社内諸規定を制定し順守する
 - ③ PDCAサイクルを基本として継続的に活動する
2. 事業活動における環境負荷を継続的に削減する
 - ① エネルギー消費量、資源消費量を削減する
 - ② 廃棄物の排出を抑制し、リサイクル化を推進する
 - ③ 化学物質の使用量を抑制し、適正管理を徹底する
3. 環境に関する法規制等を順守する
4. 環境保全のために有用な製品の開発を推進する

制定日：2018年 5月 18日

代表取締役 **山崎 純生**

組織の概要

社名	ホロン精工株式会社
代表者	山崎 純生
所在地	本社・本社工場 〒389-0822 長野県千曲市大字上山田 3813番地191 電話：026-276-0323(代) Fax：026-275-6284 URL：https://www.holon-seiko.co.jp/
連絡先	環境管理責任者 山崎 純生 環境推進委員長 藤岡 雄一 電話：026-276-0323(代) Fax：026-275-6284 e-mail：info@holon-seiko.co.jp

事業内容	プラスチック加工機械・同付属装置の製造・販売
主要製品	粉碎機・破砕機・プラスチック造粒機

創立	1989年3月23日	従業員	14 名
資本金	10 百万円	延べ床面積	1,172 m ²
製品出荷額	400 百万円	事業年度	4月～3月
製品生産量	400 台		

認証・登録の対象組織	ホロン精工株式会社
------------	-----------



アクセス



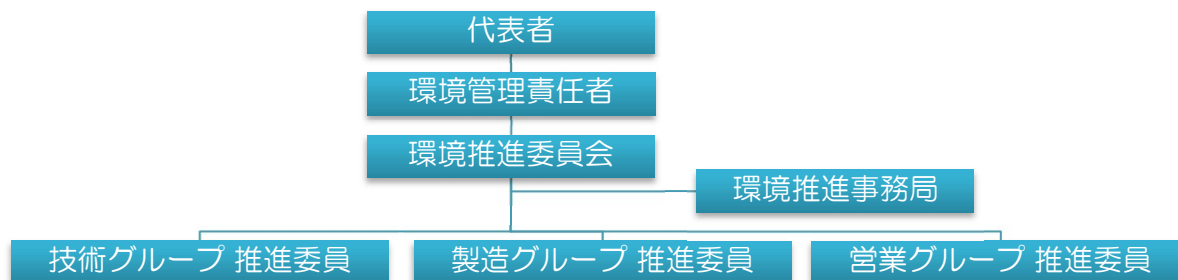
長野市方面から

- 国道18号線より信号「戸倉上山田温泉入り口」を右折
- 万葉橋を渡り、信号「上山田文化会館前」を左折
- 信号「千曲市上山田庁舎前」を左折
- 西友 上山田店様のある交差点を左折
- 突き当りを右方向へ進んでいただくと、左手に当社がございます

上田市方面から

- 国道18号線より信号「田町」を左折
- 坂城大橋を渡り、信号「村上」を右折
- しばらく進み、西友 上山田店様のある交差点を右折
- 突き当りを右方向へ進んでいただくと、左手に当社がございます

実施体制図及び役割・責任・権限表



担当	役割・責任及び権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営に関する統括責任 ・ 環境経営システムの実施に必要な要員、設備、費用、時間、技能技術者の準備 ・ 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・ 環境活動レポートの承認 ・ 全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営システムの構築、実施、管理 ・ 環境関連法規等の取りまとめ表の承認 ・ 環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・ 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・ 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
環境推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境活動計画の審議 ・ 環境活動実績の確認・評価 ・ 従業員に対する教育訓練の実施
環境推進事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境推進委員長への補佐、環境推進委員会の事務局 ・ 環境活動の実績集計 ・ 環境関連法規等取りまとめ表の作成・最新版の管理及び順守評価 ・ 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境推進委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・ 問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・ 自主的・積極的な環境活動への参加

環境目標 及び 実績値と評価

※ 評価基準：目標達成 = ○, 目標未達成 = ×

項目		年度	2013年度	2022年度		2023年度	2024年度
			基準年度 実績値	目標	実績値 評価	目標	目標
排出量の削減	電力使用量の削減	kWh	68,179	50,452	51,824	49,771	49,089
		kg-CO ₂	32,862	24,318	24,979	23,989	23,661
		基準年度比	-	-26%	× (-24%)	-27%	-28%
	自動車燃料使用量の削減	ガソリン ℓ	689	510	529	503	496
		軽油 ℓ	17,509	12,957	15,699	12,782	12,607
		kg-CO ₂	47,550	35,187	42,428	34,712	34,236
		基準年度比	-	-26%	× (-11%)	-27%	-28%
	灯油使用量の削減	ℓ	3,521	3,239	2,534	3,204	3,169
		kg-CO ₂	8,774	8,072	6,315	7,984	7,897
		基準年度比	-	-8%	○ (-28%)	-9%	-10%
	二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	89,187	67,782	73,721	66,890	65,998
		基準年度比	-	-24%	× (-17%)	-25%	-26%
	二酸化炭素排出量係数（調整後）：0.482 (kg-CO ₂ /kWh) 中部電力 2015年度						
排出量の削減	一般廃棄物の削減	kg	2,740	2,028	1,590	2,000	1,973
		基準年度比	-	-26%	○ (-42%)	-27%	-28%
	廃油の削減	kg	1,980	1,267	540	1,247	1,228
		基準年度比	-	-36%	○ (-73%)	-37%	-38%
の使用削減	節水	m ³	104	104	109	104	104
		基準年度比	-	現状維持	× (+5%)	現状維持	現状維持
削減の物質	有機溶剤使用量の削減	ℓ	629	579	632	572	566
		基準年度比	-	-8%	× (+0.5%)	-9%	-10%
購入	事務用品のグリーン購入推進	グリーン商品比率%	41	-	25	-	-
		基準年度比	-	-	-	-	-
の製品環境へ配慮	有害物質含有量の少ない製品設計	有害物質含有部品比率%	0	0	0	0	0
		基準年度比	-	現状維持	○	現状維持	現状維持

コメント

7項目中、4項目で目標未達成となった。

特に、自動車燃料については、新型コロナウイルス感染症の影響による外出などの制限がほぼなくなり、特に遠方への商談や納品の機会が増えたためと考える。

また、有機溶剤については、基準年度を上回っており、受注量の増加を勘案しても注意が必要なレベルである。希釈割合の管理徹底や、歩留まりの向上など、基本的な対策の再確認が必要である。

なお、2023年度の目標値は、各項目とも従来通り一定の割合で引き下げる。

環境活動計画と取組結果

※ 評価基準：目標達成 = ○, 目標未達成 = ×

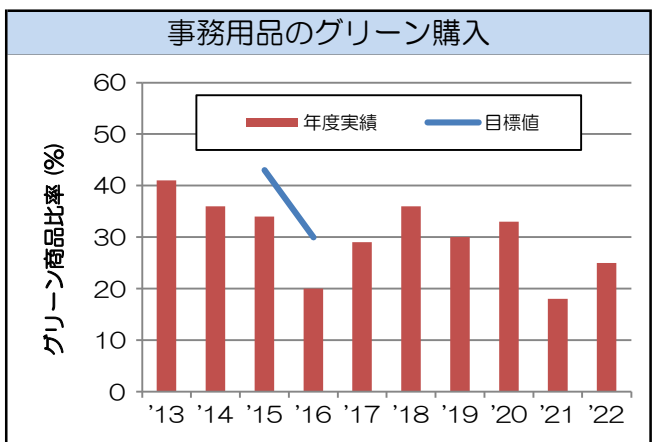
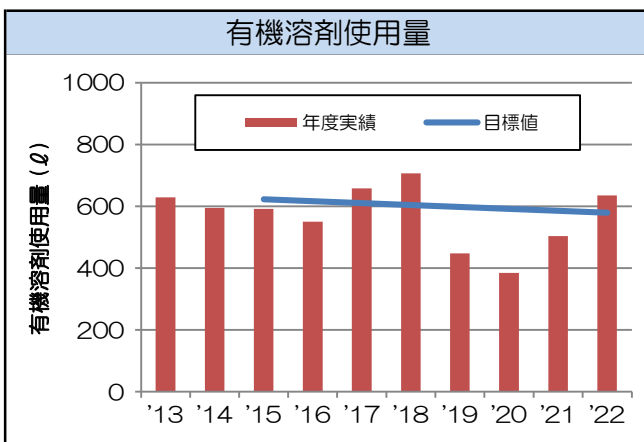
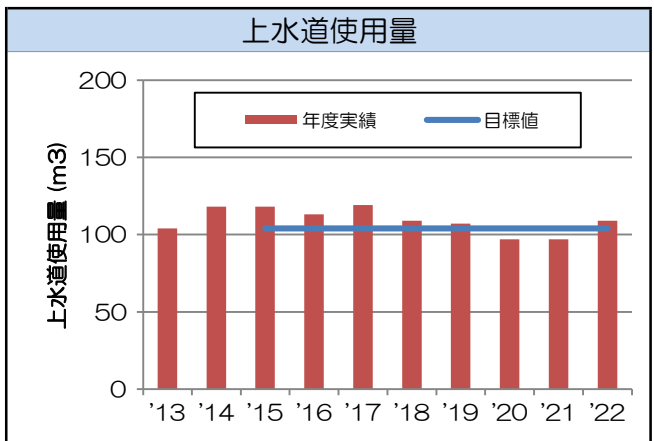
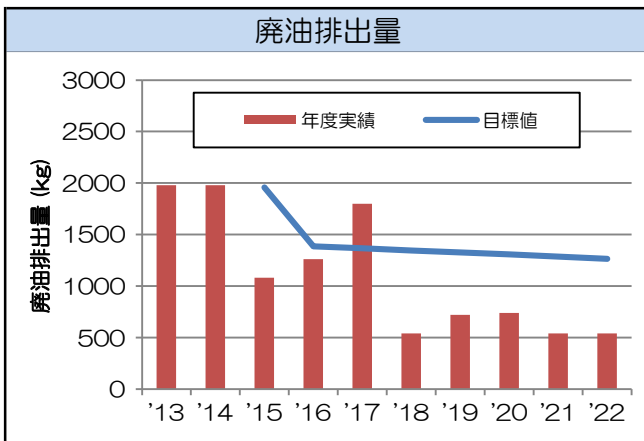
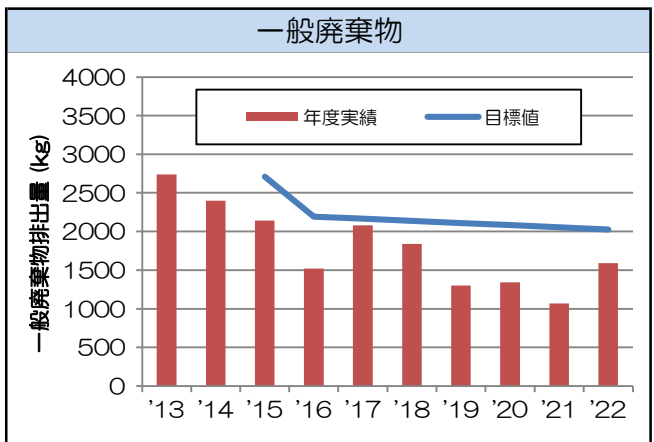
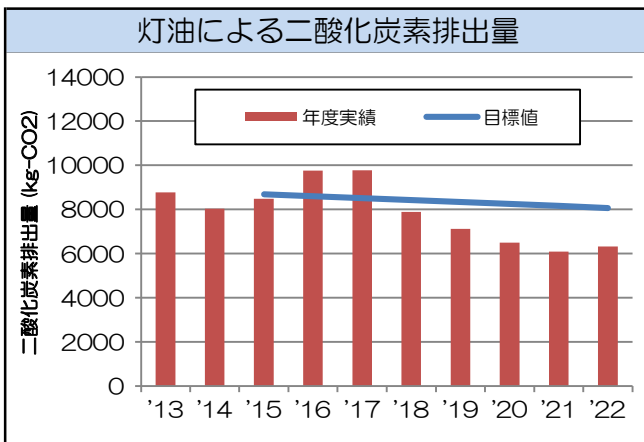
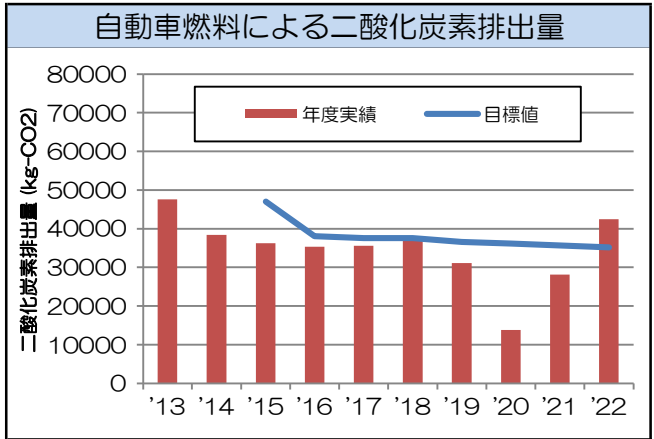
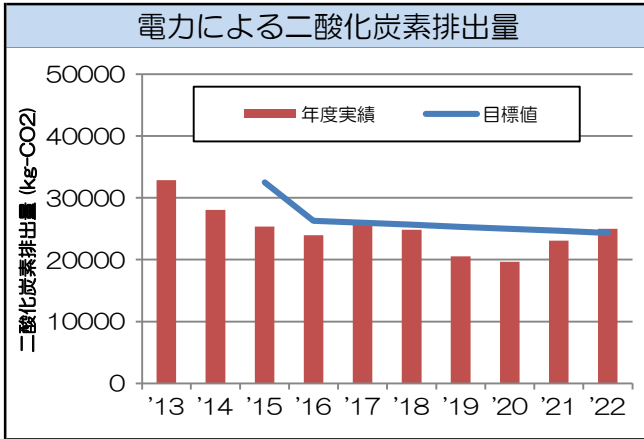
今年度の取組計画	結果と今後の取組	評価	実績
電力による二酸化炭素排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> 空調温度の適正化 (冷房28℃, 暖房20℃) 不使用時のこまめな電源OFF (工作機械, 照明, パソコン) 	目標をわずかにオーバーした。 受注増によるものであり、単位売上当たりの実績値は適正なレベルにあると考える。 継続実施	×	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> 効率的ルートでの営業・納品 エコドライブの推進 不要なアイドリングの抑止 製品不良ゼロ 	目標を大きくオーバーした。 商談や納品など、外出の機会が増えたためと考える。 特に遠方への外出については交通手段や訪問ルートを都度検討する。 継続実施	×	
灯油による二酸化炭素排出量の削減 <ul style="list-style-type: none"> 室温管理による暖房設定 暖房のこまめな電源OFF サーキュレータの設置 	目標を大きく達成できた。 特に、単位売上当たりの実績値は過去10年間で最少である。 製品倉庫のシートシャッタを手動に切り替えた効果も大きかったか。 継続実施	○	
一般廃棄物の削減 <ul style="list-style-type: none"> 分別の徹底 仕入先との協力による簡易包装・簡易梱包の推進 コピーの裏紙利用 紙類のリサイクルを推進 	目標を大きく達成できた。 取引先との部品輸送の通い箱化、取引先による梱包資材の引取りが進んだことによると考える。 継続実施	○	

今年度の取組計画	結果と今後の取組	評価	実績	
<p align="center">廃油の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な切削油の管理による交換頻度の削減 恒久的な切削油の腐敗防止対策を検討 		○	<p>過去4年間、基準年度の1/3程度を継続している。このレベル維持に努めたい。</p> <p>継続実施</p>	
<p align="center">節水</p> <ul style="list-style-type: none"> 節水ポスターの掲示 節水弁の取り付け 蛇口を自動水栓へ交換 			×	<p>目標をわずかにオーバーした。年末に外壁と屋根の塗装工事をを行い、その洗浄に使用したため11月の使用量が増えた。他の期間は減少傾向にあるため、蛇口の自動水栓化による効果か。</p> <p>継続実施</p>
<p align="center">有機溶剤使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 塗装作業の効率化 塗装工程の歩留向上 保管量の適正な管理 希釈計量管理の徹底 		×		<p>目標と基準年度の実績値をオーバーした。希釈計量管理の徹底と、歩留まりの向上を再確認する。</p> <p>継続実施</p>
<p align="center">事務用品のグリーン購入推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務用品のグリーン商品購入比率を確認 			-	<p>データ集計のみ</p>

※ 基準年度は2013年度

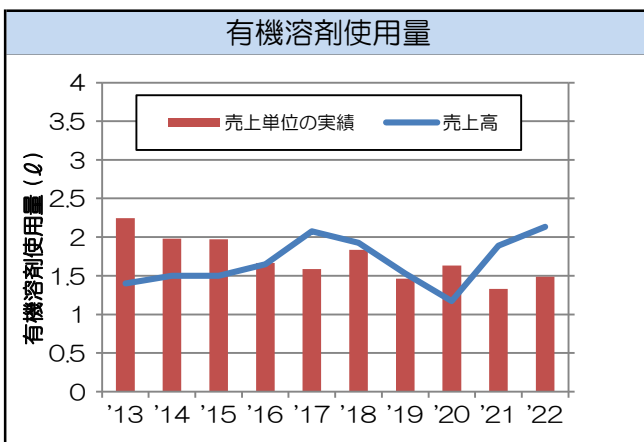
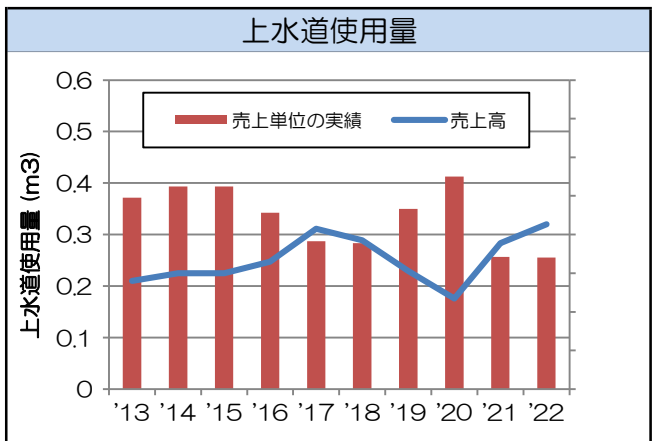
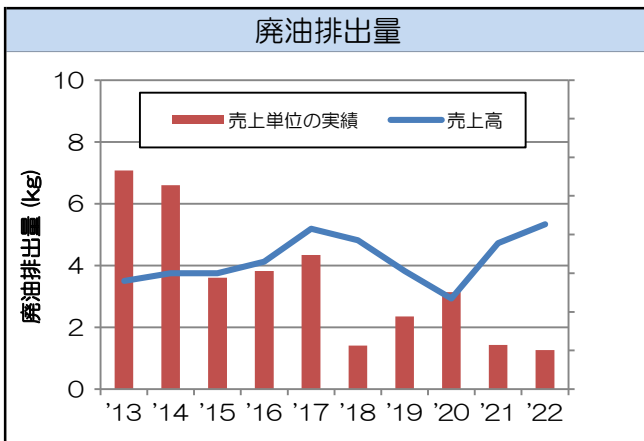
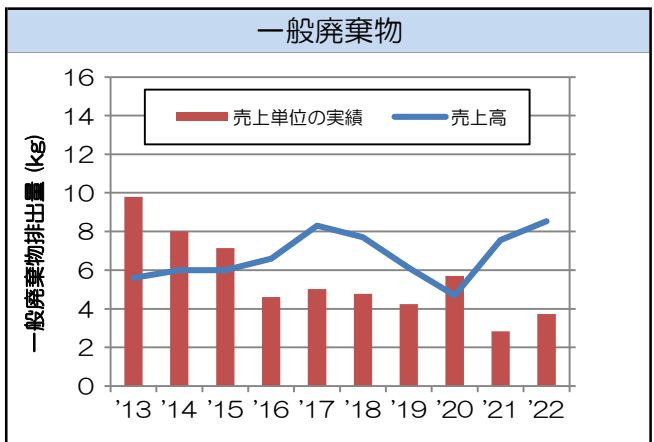
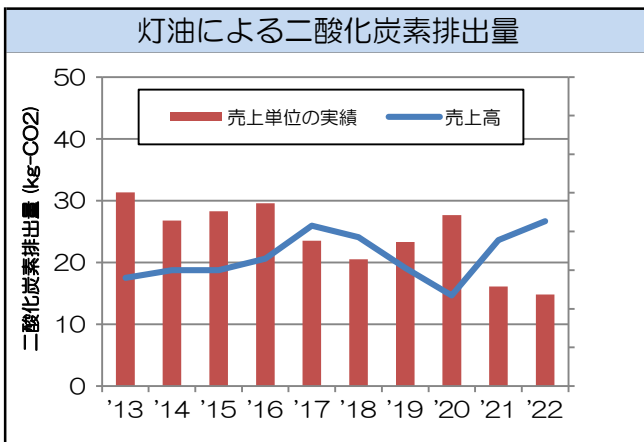
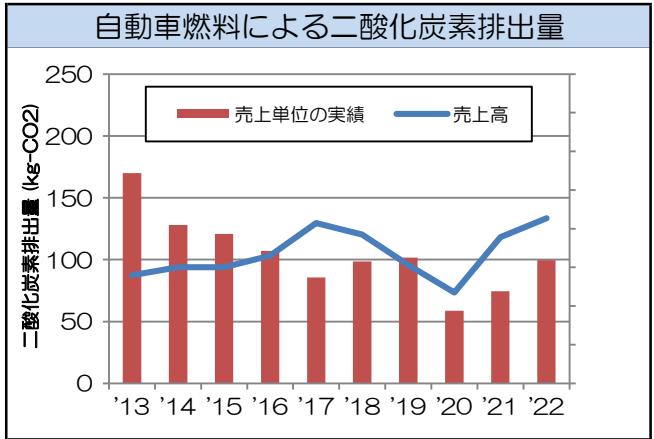
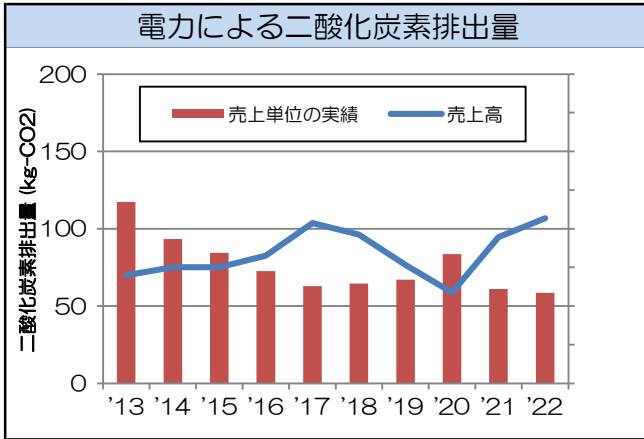
実績値の推移

※ 2013年度は基準年度のため、2014年度は
試行期間のため、目標値の設定無し



実績値の推移（単位売上あたり）

※ 売上高は右目盛り（非表示）



環境関連法規等の順守状況

環境関連法規等の順守状況について評価の結果、下表の通り順守されています。また、関係当局からの違反の指摘、訴訟等もありませんでした。

法規制等の名称	該当する事項	確認内容	評価
廃棄物処理法	産業廃棄物(廃油等)の処理	契約書, 許可証, マニフェスト	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則	SDS, 特殊健康診断記録 作業環境測定記録	○
消防法	危険物取扱量・保管量の把握	購入記録, 現場確認	○
PRTR法	対象化学物質の取扱量の把握	購入記録	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品の簡易点検	点検票	○

代表者による全体の評価と見直し

【環境方針・目標・活動計画等の改訂】

環境方針・目標の改訂の必要はありません。
活動計画の目標値については、従来の計画通り一定の割合で引き下げることにします。

【総括】

年度末に近づくにつれ、2020年から続くコロナ禍により先が見えてきたように感じます。しかし、秋から年末にかけては、社内でも数人が陽性となったため、その都度1~2週間の療養が必要なため人員不足となりました。受注増とも重なったことで、製品納期に影響しそうな場面もあり、残業や営業日増により対応しました。
半導体不足による電気部品の調達難は継続しておりますが、代替品を使用するなどして何とか生産を継続しています。また、原油高や円安、資源不足による部材の値上げは、収益に直結しています。特に、化石燃料や電力の値上げの影響は大きく、日頃の環境活動による省エネ化が収益改善の一助となっていることを実感しました。
受注増の影響で、取組み項目によっては、目標値をオーバーするものもありましたが、次年度の目標値は計画通りに引き下げ、より着実な活動を続けてまいります。
取組目標については、前年度に引き続き、オンライン営業の推進、開発中新機種の発売、製品不良ゼロを掲げることと致します。

